

# 府養研ニュース

2005年11月号

平成17年11月7日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)事務局  
柏原市立国分中学校 会長 多根井 次郎 〒582-0021 柏原市国分本町7-1-20  
問い合わせ・ご意見は、Mailで本部役員まで fuyouken@visithp.jp

**ホームページもご覧ください。** <http://fuyouken.visithp.jp>

特別支援教育の動向、関連リンク紹介などの各種情報をご覧になれます。

ニュースの全部とバックナンバー、講演会案内、報告がご覧になれます。

府養研ニュースは毎月Eメールで配布されています。来月12月は5日(第1月曜日)発行予定です。

一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または遞送されています。

**支部役員総会** 第3回 2006年1月12日(木) 会場は アウィーナ大阪

新しい時代の義務教育を創造する(答申)(案)が公開されています

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/001/05102601.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/001/05102601.htm)

特別支援教育を推進するための制度の在り方についての最新資料です。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401.htm)

今後の審議会スケジュール(資料3)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401/001/003.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401/001/003.pdf)

答申素案の新バージョン(資料2-1)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401/001/001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401/001/001.pdf)

イメージ図(資料2-2)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401/001/002.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/016/05102401/001/002.pdf)

## 研究部から

自閉症教育プロジェクト

今後の予定

シンポジウム 2006年2月4日(土)

## 行事部から

施設見学研修報告

平成8/26(金)実施

京都市立西総合養護学校と知的障害者入所更生施設「洛西ふれあいの里更生園」、

知的障害者通所授産施設「洛西ふれあいの里授産園」

## 研修部から

教育講演会

現場の実情を踏まえて

案内再添付

2006年2月2日(木)大阪府教育センター大ホール

行動障害の子供たちの理解と対応(仮題)

関わる人たちの共通理解と一致した対応を求めて

講師 兵庫教育大学助教授 井上 雅彦

## 支部から <http://fuyouken.visithp.jp/shibu.htm>

<p><b>南大阪LD研修会</b></p> <p>案内添付</p>	<p>平成17年(2005年)11月23日(水) 午後1時30分から午後5時</p> <p>大阪府立大学 学術交流会館</p> <p>講演「特別支援教育最新情報」 竹田 契一</p> <p>◎シンポジウム「学校現場での支援の在り方を考えるーリソースルームの取り組み-」 参加協力費(資料代) 1000円</p>
<p><b>北河内養護教育研究会夏季研修</b></p> <p>ホームページに<b>報告</b></p>	<p>平成17年8月4日(水)枚方市教育文化センター</p> <p>テーマ特別支援教育は子どものより確かな把握から始まる</p> <p>～アセスメントを手がかりに子どもの位置から指導する～</p> <p>講師子どもの教育研究所所長 上嶋 恵先生</p>

## 他団体から

<p><b>第19回養護教育教材教具展</b></p> <p>大阪養護教育振興会</p> <p>案内添付</p>	<p>平成18年1月19日(木)～1月24日(火)</p> <p>午前10時～午後8時(土、日曜日も平常通り)</p> <p>大阪市立長居障害者スポーツセンター 2階ホール</p> <p>(1月24日(火)は作品撤去のため午後2時まで)</p> <p><b>作品展示</b> 大阪府内養護教育諸学校、小・中学校養護学級設置校の自作の教材教具と、それを使つての授業の工夫</p>
<p><b>ムーブメント教育研修会</b></p> <p>案内添付</p>	<p>平成17年12月17日(土) 14:00～16:00</p> <p>大阪教育大学 附属養護学校</p> <p>講師 小林芳文先生 横浜国立大学教授</p> <p>日本ムーブメント教育・療育協会会長</p> <p>☆ 参加費 : 2,000円 (当日 徴収いたします)</p> <p>ムーブメント教育についてはホームページ</p> <p><a href="http://www008.upp.so-net.ne.jp/movement/">http://www008.upp.so-net.ne.jp/movement/</a>をご覧ください</p>
<p>よこはま発達クリニック 2006年冬のセミナー</p>	<p>2006年1月8日・9日</p> <p>順天堂大学有山記念館(東京都文京区、JR・地下鉄 お茶の水駅 徒歩5分)</p> <p>『高機能自閉症・アスペルガー症候群の理解と支援』</p> <p><a href="http://www.yfdc.net/2006fuyu.htm">http://www.yfdc.net/2006fuyu.htm</a></p> <p>1 『支援の基本は理解です』(講師:吉田友子)</p> <p>2 『幼児期から小学校低学年の支援』(講師:村松陽子)</p> <p>3 『思春期に受けることの多い相談・あれこれ』(講師:吉田友子)</p> <p>4 『自閉症研究:最近の話題』(講師:内山登紀夫)</p> <p>【受講料】講義につき:一般 6,300円</p>

府養研ホームページ情報コーナーもご覧ください。

<http://fuyouken.visithp.jp/joho01.htm>

# 教育講演会ご案内

## 行動障害の子どもたちの理解と対応

関わる人たちの共通理解と一致した対応を求めて

講師 兵庫教育大学助教授 井上 雅彦

「特別支援教育」を考える上で、子どもたちをどう理解しどんな対応をするのか、校内の体制を含めて具体的な提案が求められています。子どもたちに関わる全ての人たちが共通理解の上に立った対応をしていくために、今何が必要でしょうか。子どもたちの問題行動への対応を考えることを通して、まず一步を踏み出して行きたいものです。

日々養護学級、養護学校で奮闘されている先生方、特別支援教育に関心を寄せておられる方々に、現場の実情を踏まえての今講演で、大きい示唆が得られることと思います。

多数のご参加をお待ちしています。

2月2日(木) 14:30~

大阪府教育センター大ホール

(地下鉄御堂筋線あびこ下車徒歩10分)

お申込みの必要はありません。駐車場はありませんので、公共交通機関でお越しください。



## 行事部主催 施設見学研修<8/26(金)実施>(報告)

今年度は、京都市立西総合養護学校と知的障害者入所更生施設「洛西ふれあいの里更生園」、知的障害者通所授産施設「洛西ふれあいの里授産園」を研修先を選びました。西総合養護学校は、6年連続で文部科学省の教育研究開発学校指定研究を受けておられ、今年度がその最終年に当たっています。また、すぐ隣りには洛西地域の福祉の拠点である洛西ふれあいの里授産園、更生園が位置しています。洛西地域の福祉の拠点となっているこれらの学校や施設の取り組みや現状について研修しました。ただ、今年度は事前のアピールが足りなかったのか、応募された方が22名にとどまり、前日のキャンセルもあって、当日は20名で出発することになりました。

### <京都市立西総合養護学校>

学校に到着後、校内見学をさせていただいた後、浜口先生から西総合養護学校の取り組みについて詳しくお話いただきました。以下、その内容の一部を紹介させていただきます。

西総合養護学校は、1986年の設立当初は、発達遅滞の児童・生徒を対象とする養護学校として出発しましたが、2004年、地域に根差し、地域の障害のある児童・生徒を支える学校として再編され、名称も西養護学校から西総合養護学校に変更されました。この再編によって、西京区、右京区を中心とする新しい通学区から156名の知的障害（自閉症等の障害を含む）、身体障害の子どもたちが4台のスクールバスで通ってきています。再編される前に比べ、スクールバスでの送迎時間が短縮できました（通学時間の平均は約30分）。

総合養護学校として目指していることは、知的障害のある子どもたちと、身体障害のある子どもたちとが互いに刺激しあい、支え合いながら、地域での暮らしと自立を目指し、社会の一員として自ら学び自ら行動することです。そのためには、教職員の側の子どもたちへの支援を、なだらかに減らしていくことが、将来の自立、社会参加の実現にとって大きなポイントになります。

支援のもとでの「できること」を増やすことで達成感を得るとともに、個々の子どもたちが担える役割を見つけ出ししていくことで、ゆっくりと、なだらかに支援そのものを減らしていく。それらの積み重ねが自立、社会参加へとつながっていくという展望に立って日々の取り組みが行われています。

具体的には、生活体験学習の中で、計算力や国語力の必要性を実感し、またそれらを体験学習で実際に活用することで、学力を高めていくができています。

また、様々な障害のある子どもたちを、同一クラス（3～4名）にすることで、それぞれが長所を発揮し、短所を補い合う関係が築けます。例えば、身体障害のある生徒と自閉症の生徒が同じクラスにいる場合、自閉症の生徒が、落ち着きのある身体障害の生徒の行動をモデルにして落ち着きを得ることができると同時に、逆に積極性に欠ける身体障害の生徒が、自閉症の生徒の積極的な動きに刺激を受けて行動がすみやかになるといった関係を築けている事例がみられます。

総合養護学校のもう一つの柱になるのが、地域ぐるみの学校づくりです。障害のある子どもが1つの課題を解決・改善しようとするれば、学校だけではどうしようもなく、多様なつながり（多様な地域ネットワーク）の中でしか改善できないケースが増えてきています（例えば「てんかん発作の薬が切れてしまって家がない」という場合に、要保護の関係部門や医療関係者、学校とが連携して初めて何とか解決にいたったという事例など）。その意味で、地域での障害児・者生活支援ネットワーク会議は、きわめて重要な役割を担っています。この会議では、西総合養護学校、障害者生活支援センター、福祉事務所、社会福祉協議会の4つの機関が運営の中心となり、そこに居宅支援事業所、子ども支援センター、

通所・入所福祉施設、就学前施設、児童相談所、保健所が加わったかたちで、個々の児童・生徒についてのケース会議を行っています。最初のうちは面識の無いもの同士が自己紹介をするだけで時間の大半が過ぎてしまうという会議になりがちでしたが、最近は個々の子どもの目の前の問題・課題をどのように解決していけばいいか、具体的現実的な話し合いが持たれるようになりました。

西総合養護学校では、地域ぐるみの学校づくりの一環として、保護者代表、地域住民の代表、学識経験者、福祉関係者等をメンバーとする学校運営協議会を設け、学校への第三者評価を受けたり、地域の教育力の向上に向けた様々な取り組みを進めています。

さらに、地域におけるセンター機能を果たすために、育（はぐぐみ）支援センターを学校内に設置し、子育てに関する保護者からの教育相談、福祉サービス・福祉機器利用に関する相談、地域の小学校、中学校等からの、LD等の児童・生徒への支援の方法についての相談、障害のある生徒の進路先に関する相談や支援業務を行っています。



昼食後、見学人数の関係で2班に分かれて、西総合養護学校と道路1本を隔てて隣接する「ふれあいの里更生園」と「ふれあいの里授産園」を見学させていただきました。両施設の見学を終えた後、ふれあいの里保養研修センターで、両施設の職員の方から、それぞれの施設の概要について説明をしていただきました。

#### <洛西ふれあいの里更生園>

ふれあいの里更生園は1992年に開設された、日常生活に支援を必要とする知的障害者の入所施設です。定員は60名で、この定員は常に満杯状態です。職員は30名です。

開所当時は、一部屋4人定員で人間関係をめぐるトラブルが多かったのですが、現在は近くに3ヶ所のアパートを借りることで、一部屋1～2人の人数を保っています。日中は、約半数の入所者が近くの知的障害者共同作業所ホップランドで作業をしています。現在、昼間は全員が外部に出て作業・活動できるよう取り組みを進めているところです。

課題としては、幼児期における支援が、学齢期にうまく引き継がれることなく、さらに学齢期と学齢期を過ぎた時期の支援との引き継ぎも途切れがちであるという問題があります。これは社会福祉の部門と教育の部門とがうまく連携できていないことに原因があると考えられます。この部分を改善することだけでも、これから入所される方々は様々な面でずいぶん助かるのではないのでしょうか。

#### <洛西ふれあいの里授産園>

洛西ふれあいの里授産園は、知的障害者の働く場として、1989年に開設された通所施設です。定員は50名で、3分の2の方が療育手帳のA判定を受けておられます。平均年齢



は30歳代前半です。養護学校の高等部を卒業されてから来られる方が多いようです。通勤は、洛西地域からの自主通勤が半数以上で、他の方は福祉巡回バスを利用されています。

作業の内容は、タオル類（スーパー銭湯その他のバスタオルから福祉施設のタオルまで）の洗濯、乾燥、梱包、手織り製品の製作、紙製の箱の組み立て、陶芸作品の製作（京都駅ビルで販売しているものもある）などです。特にタオル類は、応じきれないほどの注文があり、現在は7～8社へ納品しています。作業に対する報酬は、一人当たり1日につき700円で、1ヶ月1万2～4千円程度です。陶芸については、現在は京都駅ビルでしか販売されていませんが、お一人の方の作品について、今後個人名を前面に出して、積極的に販売していこうと計画しているところです。

作業によって得られる収入は、平成16年度で約3000万円あったのですが、支出が3000万円を超えているため、赤字経営になっています。

作業内容の実態としては、適切な支援があれば作業に従事できる就労支援と、生活介護が中心となるデイサービス支援とに分かれています。

現在抱えている課題として、通所されている方々への就労支援という点で、保護者が本人の就労を「望んでいないという実態」があるという点です。これは最近の厚生労働省の調査でも授産施設に通う本人及び保護者の約70%強が就労を望んでいないという結果にもはっきりと現れています。この現実の根底には、保護者の側に「もし本人が就労したとき、解雇されたり様々なトラブルに巻き込まれたらどうしようか」という恐れがあるのではないかと想像されます。知的障害のある方々の自立への希望と保護者の現実的な心配をどのように乗り越えていけばいいのか、悩ましいかぎりです。

また、当授産園は平成15年度から厚生労働省の委託で就労生活支援相談事業を行っていますが、就労に関して様々な人たちがいろいろな立場で個別に関わってきていること、また個人情報保護法による自己規制が働いて、相談に関わる人々の間で十分な情報交換ができていないこと等が積み重なり、私たちのところに相談が回ってくるころには、「末期的な状況」に陥ってしまっていることがあります。障害のある方たちへの支援をトータルに見ていくシステムの構築が不可欠であるように思います。

また、これは廃案になったのですが、「障害者自立支援法案」がもし施行されたとしたら、私たちの試算では授産園で作業している方たちへの支払い報酬が半額になってしまうようです。このことも見学者の方々には、法案の中身をよく知っていただくうえで、心にとどめておいていただければ有り難いと思います。



#### <参加者の感想>

- ・以下、当日施設見学研修に参加していただいた方々の感想を掲載させていただきます。一部文言を変更させていただいた場合もありますのが、ご了承下さい。

- ・府養研施設見学会に参加させていただき、有り難うございました。特別支援教育の問題について興味があり、今日、京都市立西総合養護学校の見学があることを知り、参加しました。(受け入れ対象の)児童・生徒を広げていく一方で、地域化、ネットワーク化を進めるといふ課題に対して、どのように具体的方法論をもって臨んでおられるのかが、説明をお聞きすることで、はっきりしました。校内体制でどのように地域支援ネットワークへの人材を捻出されているのか、考えさせられることも多かったです。大阪市でも時間をかけて(地域支援ネットワークを)構築していく必要を感じました。現場における支援費の問題も深刻なことがよくわかりました。
- ・かねてから西総合養護学校は訪問したいと思っていましたが、見学できて本当に良かったです。自立と社会参加、本人と保護者の願いを大切にした教育を保障することは、言葉でいうのは簡単だけれど、実践は大変だろうと思います。また、洛西ふれあいの里更生園、授産園の見学も参考になりました。独立採算を目指し、苦勞されていることがよくわかりました。制度改革の波を受け、施設職員の方々の悩みや、今後の不安など伺うことが出来て、良い勉強になりました。
- ・西総合養護学校で障害種別が多様な子どもたちが、それぞれの長所を出し合いながら共に生活している様子が、自分の持つ養護学級の雰囲気似ていて、微笑ましく思いました。ふれあいの里授産園では、狭い中でそれぞれ落ち着いて作業しておられました。こまかいところで構造化等の工夫をしておられるのがわかりました。ふれあいの里更生園では、少しでもゆったりとした静かな環境を確保するべく、夜アパートを使ったり、昼半分の方を作業所に割り振ったりという工夫をされていて、大変だなと感じました。
- ・京都が総合養護学校として動き出していると聞いていましたが、大変わかりやすい話しをしていただきました。西総合養護学校の施設、よく考えられているなあと思いました。総合になった時の保護者や職員の不安が、実際動き出すと、そうでもなく、いい方向をむいているとお聞きしました。大阪もそうなるのかな。更生園、授産園、とつても明るく、今までの施設とはずいぶん違っていました。
- ・小学校の子どもと日々かかわっていると、なかなか学齢期後のことまで考えるということができません。今回見学させて頂いて、漠然とですがもっと長い目で子どもたちの暮らしを考えていかないといけないなあと感じました。大阪以外の施設を見せて頂くのが初めてだったので、視野が広がった気分になりました。いろんな立場の人ともっともっとお話して積極的に連携していかないと…と思いました。
- ・施設見学の今までのイメージが変わりました。障害のある人々にとって、明るくきれいな施設で生活できることは、幸せなことだと思います。(行財政上のしわ寄せを受け)不十分な施設・設備の中で作業せざるを得ない方々が多い現状に歯がゆい思いで一杯でした。しかし本日見学させていただき、目からうろこでした。一日も早く、今日見学させていただいた授産園、更生園のような施設が全国的に広がっていくといいなあと思います。そうなることで保護者の安心する顔が見られるなあと思います。(私自身も)その広がりに向けての取り組みの一端にでも参加できたらと考えています。
- ・西総合養護学校については、特別支援教育に関して先駆的な取り組みがとても参考になりました。更生園では、入所者の生活の安定のため、アパートを借りたり、外での就労の場を確保したり、現状に満足しないで工夫を続けておられる姿勢にあたたかいものを感じました。授産園では、大きなクリーニングの設備にびっくりしました。落ち着いて作業しておられ、とても参考になりました。
- ・(西総合養護学校では)教室の中だけでなく、建物そのものから構造化されていてわかりやすいのでびっくりしました。(ふれあいの里更生園、授産園に関して)小学校にしていると、どうしても「大人になってからのことは先の話」と、親も教師も思ってしまうので、今回の見学はそのことを考える良いきっかけになりました。

- ・昨年に引き続き、施設見学に参加させていただきました。自分の学校の設備と全然違い、うらやましくもあり、現実に戻ると落ち込んでしまうところもあります。更生園・授産園は、たいへんきれいで明るく、びっくりしましたが、予算面など厳しい面もあるとお聞きし、参考になりました。今自分が教えている子らが、将来働く環境が、少しでも明るい方向に向かって欲しいとあらためて考えさせられました。
- ・初めての参加で、見学したり、説明していただいたりした中で疑問に思っていたことが、少し解けたように思います。障害者の施設というと、暗いイメージを持たれやすいのですが、(更生園・授産園は)とても明るく清潔で、地域の中でも受け入れられやすい環境にあると思いました。
- ・初めて参加させていただきました。西総合養護学校の建物を見て、学校というイメージではなく、環境のよい住みよい所という印象を受けました。1教室3人で担任1人というのも驚きでした。学校を卒業してから隣の授産園などで働ける(場合もある)というのも、先の見通しが持てるのでよいと思いました。どの施設もきれいで明るいので働きやすいと思います。事業の資金面で苦労されているということ、また、職員の方々が24時間体制で働いておられるということも知りました。他府県での施設見学は参考になりました。
- ・私の担当している今の養護学級も、今年から車イスの子どもをむかえ、いろいろなタイプの子どもが入り交じった中での取り組みをしています。両者のよさを引き出せるような指導ができれば、と思っています。具体的な様子を聞かせていただき、参考になりました。(更生園・授産園を見学して)地域で活動できる場所を通して、一般就労にもつながる、そんな世の中を作っていく必要性を感じました。
- ・府養研の施設見学研修に初めて参加しました。普段では、なかなか見学できない施設を見学させていただき、また、詳しい説明を聞かせてもらって非常に勉強になりました。今後の教育活動に生かしていきたいです。
- ・総合養護学校として取り組みを進めておられる京都市立の養護学校の一つを見学でき、現場の話も聞けて勉強になりました。また、施設の職員の方たちの支援費制度の現状についての話を聞いたこともよかったです。
- ・地域ぐるみの学校づくりを目指して、地域との交流の様子をおききして、地域に根ざし地域とともに歩む学校の大切さを痛感しました。
- ・有り難うございました。いろんな意味で先に行く部分が見学できたように思います。

以上、今年度行事部主催の施設見学研修の報告とさせていただきます。京都市立西総合養護学校の先生方、洛西ふれあいの里更生園、授産園の職員及び入所者の皆様、当日はお忙しい中、府養研施設見学研修のためにお時間を割いていただき、本当に有り難うございました。末尾ながらお礼申し上げます。

文責 行事部 吉野 猛 (箕面市立第二中学校)



# 第3回「南大阪LD研修会」のご案内

大阪市以南から和歌山県の各地域LD研究会が共催して、1昨年第1回、昨年第2回の南大阪LD研修会を開催し、たくさんの方に参加して頂きました。特別支援教育の本格実施を前に各市町村では、コーディネーター研修や校内委員会の設置が始まっています。今回も竹田契一先生にプロデュースして頂き、学校現場における支援についてのシンポジウムを計画しました。校内支援体制のひとつとして独自にリソースルームを立ち上げ取り組んでいる学校にシンポジストをお願いしています。竹田先生の「特別支援教育の最新情報」の講演も予定しています。ぜひ、ご参加下さいませようお願いします。

1. 日時 平成17年(2005年)11月23日(水) 午後1時30分から午後5時 1時より受付

2. 場所 大阪府立大学 学术交流会館

大阪府立大学へのアクセス

南海高野線「白鷺」駅、南へ徒歩10分

地下鉄「中百舌鳥」駅、南東へ徒歩20分

学术交流会館へのアクセス

府立大学「白鷺門」南へ、モニュメントを過ぎて左側(総合科学部2号館前)

駐車場は、ありません。

3. 定員 300名

4. 参加対象 教育・保育・医療・福祉関係者、保護者

5. プログラム

(ア) 講演「特別支援教育最新情報」

日本LD学会 副会長

特別支援教育士資格認定協会 会長

大阪医科大学LDセンター 竹田 契一 氏

(イ) シンポジウム「学校現場での支援の在り方を考える - リソースルームの取り組み - 」

堺市立向丘小学校・堺市立東百舌鳥小学校・河内長野市立小山田小学校・

富田林市立川西小学校・東大阪市立大蓮小学校・東大阪市立成和小学校

6. 主催

中河内LD研究会・南河内LD研究会・和泉LD/ADHD研究会・大阪市LD研究会・堺LD研究会・和歌山LD研究会・軽度発達障害研究会(岸和田)

7. 後援

日本LD学会・大阪府教育委員会・和歌山県教育委員会・大阪市教育委員会・柏原市教育委員会・松原市教育委員会・羽曳野市教育委員会・富田林市教育委員会・堺市教育委員会・和泉市教育委員会・岸和田市教育委員会・河内長野市教育委員会・大阪狭山市教育委員会・和歌山市教育委員会・橋本市教育委員会・大阪K-ABC研究会・大阪WISC-研究会・大阪ADHDを考える会「のびのびキッズ」・大阪LD(学習障害)親の会「おたふく会」

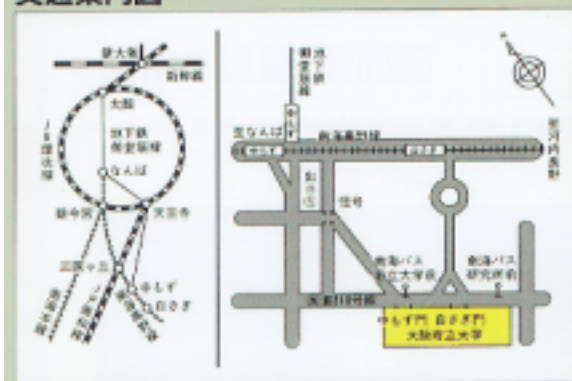
8. 参加協力費(資料代) 1000円(当日会場にてお願いします)

9. 連絡先 中河内LD研究会事務局 大山 説子 (東大阪市立成和小学校勤務)

Email:ks.ooyama@s6.dion.ne.jp 宛お願いします

10. 参加申し込みは不要ですが、参加者多数の場合お断りすることがあります

## 交通案内図



西側 地下鉄御堂筋線中もぎ下車、5号出口すぐ左折、徒歩20分  
南海高野線中もぎ下車、徒歩20分  
南海高野線白鷺下車、徒歩10分

平成 17 年 11 月 1 日

各学校長 様

財団法人 大阪養護教育振興会  
常務理事 貴 瀬 昌 義  
養護教育教材教具展運営委員会  
運営委員長 鈴 木 茂 和

### 第 19 回養護教育教材教具展のご案内

謹啓 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度も、標記の教材教具展を開催することになりました。これは大阪府内養護教育諸学校、小学校・中学校養護学級担任等が障害のある子どもたちの指導にあたり、日々の教育実践の中から開発された教材・教具の一端を展示して、広く養護教育の理解と振興を図ることを目的といたしております。

公務何かとご多忙のこととは存じますが、多くの教職員、保護者の方々にご覧いただけますように、お勧めくださいますようよろしくお願いいたします。

### 記

会 場 大阪市立長居障害者スポーツセンター 2階ホール  
期 間 平成 18 年 1 月 19 日(木)～1月 24 日(火)  
時 間 午前 10 時～午後 8 時(土、日曜日も平常通り)  
(1月 24 日(火)は作品撤去のため午後 2 時まで)  
作品展示 大阪府内養護教育諸学校、小・中学校養護学級設置校の自作の教材教具と、  
それを使っての授業の工夫  
その他 「展示教材・教具目録」を受付でお渡しします。

# ムーブメント教育 研修会のご案内

## 横浜国立大学教授 小林芳文氏による講演、実技の研修会

ムーブメント教育は、1977年に横浜国立大学教授・小林芳文博士によって、初めてわが国に紹介されました。『人間尊重』の教育を基本理念として、子どもの自主性・自発性を重視し、究極的には子どもの『健康と幸福感の達成』をめざしています。この素晴らしいムーブメント教育について、ともに勉強し、日々の教育実践に反映させ、楽しいムーブメント教育を広げていきたいと考えています。

すでに東京、神奈川、福井、石川、富山、長野、千葉、茨城、北海道、青森、徳島、愛媛ほか、各地でムーブメントの研究会や子どもや成人老人等を対象としたムーブメント教室が開かれています。楽しいことが好きな大阪にも、ムーブメントの風を起こしていきませんか？

今回、ムーブメント教育 第一人者である小林芳文先生(横浜国立大学教授、日本ムーブメント教育・療育協会会長)をお招きし、講演・実技をしていただくことになりました。

ムーブメント教育に興味をもたれた方、勉強してみたいと思われる方、ぜひご参加ください。また、まだムーブメント教育を知らない方々も仲間でおられたらぜひお誘いください。

日時 : 12月 17 日(土) 14:00 ~ 16:00

会場 : 大阪教育大学 附属養護学校

〔 大阪市平野区喜連4 - 8 - 71  
大阪市営地下鉄谷町線 喜連瓜破駅下車 3番出口より東へ約 150m 〕

講師 : 小林芳文先生 横浜国立大学教授  
日本ムーブメント教育・療育協会会長

参加費 : 2,000 円 (当日 徴収いたします)

### 申し込み方法

: 下記の申込書にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

### 申し込み先

: 金川朋子 自宅 FAX 072 - 367 - 0713

### その他

- ・動きやすい服装でご参加ください。 体育館シューズをご用意ください。
- ・問い合わせ等

金川朋子(大阪教育大学 附属養護学校)

学校 TEL 06 - 6708 - 2580 学校 FAX 06 - 6708 - 2380

携帯 090 - 9984 - 1183 自宅 FAX 072 - 367 - 0713

## ムーブメント教育 研修会(12月17日) 参加申し込み

ご氏名(ふりがな)	所属名	連絡先

\* 複数枚必要な場合は、おそれいりますが、コピーをしてお申し込みください。